

「健幸都市づくり」の考えと 熱中症について

斉藤 貢一 議員

質問 人口減への歯止め等、

地方創生に向けた総合戦略の策定において、中心にあるべき考え方は、市民が健康で幸福感を感じられる生活が送れるよう「健康」の康を幸に置き換えた幸福度を重視する「健幸都市」づくりを目指すべきだと思いますが、考えをお伺いします。

答 館林市に住んでよかった、これからも住み続けたいと思う市民の割合を増やしていくとともに、本市の都市像である「水と緑と人が輝く共創都市たてばやし」に含まれている共創の理念、そして健幸の理念に基づいて、行政だけで進めるのではなく、市民と共に、

先人から受け継いだふるさと館林市を後世に伝えていきたいと考えております。

質問 「健康」に無関心な年代に対して、健康の大切

さや健幸こそが幸せに結びつくのだということをもう一度啓蒙し、健康増進を図っていく必要があります。

さらに、熱中症の危険度をはかるため、暑さ指数(WBGT) 湿球黒球温度が熱中症の危険度をはかる指数として熱中症診療ガイドライン2015でも用いられ

ております。本市ではホームページ上に暑さ対策情報の掲載のほか、市内に温度表示器の設置や簡易熱中症計の配布などにより熱中症対策が行われているが、学

校での熱中症対策と併せて熱中症指数計の普及状況についてお伺いします。

答 学校では、教育委員会からの文書等による注意喚起を行うとともに、水分やミネラル補給、活動時の休息、部活動における朝練や放課後練習の軽減等を行

うなど児童生徒の健康管理に留意してまいります。また、熱中症指数計については、常備されていない状況であります。

要望 「日本一暑いまち」を自認するのであれば、それに匹敵する対策が取られなければなりません。熱中症指数計も健康推進課に1台だけでなく、せめて各学校に配備していただくとともに、ホームページ上にも暑さ指数の実数公表のできるような体制をお願いいたします。

新しい学校給食センターの 整備について

篠木 正明 議員

質問 学校給食施設整備基

本方針にある「自校方式の良いところを取り入れたセンター方式」とはどういうものですか。

答 自校方式のメリットを可能な限り取り入れて整備するものです。見学スペースやアレルギーに対応した調理設備の整備等が一例

として挙げられます。

質問 新しい学校給食センターをPFIで整備することになっていますが、その概要を説明してください。

答 PFIとは民間の資金と経営能力等を活用して公共施設の設計、建設、運営、維持管理を行うものです。平成30年8月末の2学

期から新しい学校給食センターの運営を開始したいと考えています。整備内容としては、完全ドライ調理システムの導入やアレルギー食対応調理室の設置、見学施設等の整備などを検討しています。

質問 施設面ではより良い設備になると思いますが、問題は運営面だと考えます。施設建設後15年間、PFI事業者が調理業務などの運営をすることになります。業務委託では、市の栄養士

が調理員に指示ができません。栄養士が調理員に指示できるほうが運営面での創意工夫ができと思っていますが、PFIで自校方式の良いところを取り入れられると考えているのですか。

答 現在も調理業務は民間委託で行っています。この間、安全で安定的に学校給食を提供してきた実績があります。

質問 自校方式の良さを取り入れる上では、運営面での創意工夫が必要です。そ

れには直接、調理員に指示ができる市直営に戻すべきです。PFIで施設整備しても調理業務は市直営で行う自治体もあります。本市でもPFIから調理運営を除く考えはないのですか。

答 民間の経営能力やノウハウは安全で美味しい給食を提供でき、十分に信頼できる水準にあると考えています。また、市の職員数を増員できない状況から、民間委託を継続することも必要になると思っています。